

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・2月号・付録
2017年2月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・藤田真文

放送懇談会 骨子固まる

—12月理事会報告—

2016年12月15日、12月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 鈴木副委員長
・3月号の総合視聴率特集の執筆者を確定。テレビ局やスポンサーなどさまざまな視点から総合視聴率の現状を探る。

・追悼ページを取り上げる基準をどうすべきか意見を交わし、明確な線引きをするのではなく、放送史的に取り上げるべきかを編集部で判断することとした。

◇選奨事業委員会

〈テレビ委員会〉 出田委員長

・11月25日に月評会を開催。月間賞には、NHKスペシャル 廃炉への道2016「調査報告 膨らむコスト」(NHK)、NNNDキエメント16「いのちいたたくシゴ

ト」元食肉解体作業員の誇りと痛み」(熊本県民テレビ)、アメトリーク!「情熱大陸出たい芸人」(テレビ朝日)、山田太一ドラマスペシャル「五年目のひとり」の4本を選んだ。

〈ラジオ委員会〉 橋本委員長

・12月20日に定例会を開催予定。

〈CM委員会〉 稗田委員長

・12月19日に定例会を開催予定。

〈報道活動委員会〉 市村副委員長

・2017年2月に、全国の報道活動の情報交換会を開催予定。「報道活動部門入賞作品を見て語り合う会」の開催も検討中。

◇企画事業委員会 川喜田委員長

・2017年3月17日開催予定のセミナーの骨子が固まってきた。「スポーツの伝え方を考える」をテーマに、「世界最先端スポーツ

配信」「放送はネット配信とどう向き合うか」の2部構成を予定。
・タイトルが「スポーツの伝え方を考える」だと関心の対象が狭まるという懸念から、「放送はネットとどう向き合うか」を前面に出したほうが良いのではないかとの提案を受け、参加費や会場設定も併せ企画事業委員会で検討する。

◇マイベストTV賞プロジェクト委員会 滝野理事

・マイベストTV賞11月度の投票がシステムの不具合により1日投票が停止した問題について、現在調査中。

・広報委員会への名称変更について、細則の変更は10月の理事会で承認済みだが、実際のスタート時期について検討していく。

2. その他

①退会

紺野望さん

②志賀信夫賞選考体制と日程について

2月発行のGALACに志賀信夫賞の投票用紙を同封する。選考体制は従来通り、投票結果を受け常務理事会で決定することとした。

次回の理事会
1月25日(水)
2月20日(月)

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、藤久ミネ、川喜田尚、水島宏明、稗田政憲、出田幸彦、滝野俊一、市村元、入江たのし、岩根彰子、五井千鶴子、上滝徹也、坂本衛、桜井聖子、嶋田親一、鈴木健司、鈴木嘉一、桧山珠美、中島好登

会議記録

〔12月〕……………

5日 企画事業委員会
12日 出版編集委員会
15日 理事会
19日 (選奨)CM定例部会
20日 (選奨)ラジオ定例部会
23日 (選奨)テレビ月評会



はじめまして、批評の新参者です

鈴木誠一郎

テレビ局に35年、大学に教員として8年所属をしております。人々の生活空間は豊かとはいえない入局当時、スタジオでの夢の空間を楽しんでもらいたいとの若干奮った考えでショー番組の演出を目指し、地方局などを経てやっとその願いは叶いました。が、その頃には生活も向上して人々の夢の内容は変質してしました。

その後はプロデューサーとして初期ハイビジョンの実験的番組やイベントと連動した放送現場などで挑戦的な日々を過ごさせて頂きました。大学でも学生たちと、創作のよろこびを分かち合うという現場精神を持ち合わせてきたつもりですが、このたびの作品批評の立場となるとギアをきちっと入れ直して臨む覚悟が必要だと感じています。

志賀信夫さんは私の大学時代の恩師のご友人でした。ズボンの後ろポケットにスポーツ紙を挟んだありし日の笑顔の志賀さんに「ハイ、しっかり精進します」と誓うつもりです。

新入正会員自己紹介

出版界から考える

藤岡美玲

入社8年目の編集者です。マンガ編集に携わった後、ここ2年ほどでテレビ関係の本を担当することが多くなりました。

ニコニコ動画の登場が大学在学中、飲み会のお供はネットのネタ動画という世代ですので、映像作品はテレビでもウェブでも隔てなく観るほうだと思えます。海外のオーディション番組を観ることが趣味で、有料チャンネルや動画配信サービスで放送／配信されるものももちろん、「今週は誰が落ちたのかな……」と、最新情報をYouTubeなどで確認することもしょっちゅうです。(今年のThe X Factorは本家イギリスよりオーストラリアが面白いですね！)

出版業でも、インターネットで無料で読めるコンテンツが増えたことが、各社の作品や売上げに大きく影響しています。このたび放送批評懇談会にお誘いいただき、テレビの世界ではこの事態にどのように向き合い、行動していらっしゃるのか、勉強していきたいと考えています。